

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 多田 智 (県道係長 松田 智)	内線	4 3 6 2 (4 3 7 6)
事業種目	道 路	事業名	事業区間	総事業費	5.6億円
		道路改築事業 (主) 養父朝来線	あさごしくちやしろ 朝来市口八代	内地補償費	3.3億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
朝来市口八代			平成19年度	平成19年度	平成23年度
事業目的			事業内容		
<ul style="list-style-type: none"> 本路線は、養父市と朝来市を結び、国道9号・国道312号の代替機能を担う幹線道路である。また、本事業区間は小学校の通学路となっているなど地域にとって重要な生活道路である。 しかしながら、現道は車線幅員が5.0m、全幅6.0m程度であり、かつ曲線半径等が規定値を満足しておらず、バスなど大型車の離合が困難であり、歩道未整備であることから交通事故も発生している。そこで本事業により安全で円滑な交通を確保する。 			道路改築(バイパス) L = 880 m 合併支援道路・地域生活道路 【道路規格】3種3級(平地部) 【計画幅員】W = 6.0 (7.5) m(2車線) 現拡部 W = 6.0 (10.5) m(2車線+片側歩道) 【現況幅員】W = 5.0 (6.0) m 【計画交通量】1,600台/日(H42推計値) 【現況交通量】 1,236台/日(H17セカス)		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心を確保する道づくり	<ul style="list-style-type: none"> 通学路の安全性を向上させる。(現道は本バイパス整備後に車線幅員を縮小させ、コミュニティー道路的に利用する予定である) 本路線は第2次緊急輸送道路であり、緊急時における輸送力を向上させる。(平成16年の台風23号では国道312号が冠水による通行止めが発生しており、代替ルートとして機能した) 				
くらしと交流を支える道づくり	<ul style="list-style-type: none"> 養父市中心部と朝来市中心部を結び、地域の交流を支援する。 スキー等観光、レクリエーション目的での但馬地方への来訪者が国道312号等を迂回して本路線を多く利用しており、但馬地域の観光振興を支援する。(H18年2月の休日実測交通量2,483台/12h(平日の2.0倍)) 				
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> 費用便益比 B / C = 1 . 1 (主)養父穴栗線～朝来IC区間で唯一未改良の当該区間の整備により、観光客や歩行者等の交通安全が確保され、有効である。 				
代替性	<ul style="list-style-type: none"> 現道拡幅では人家連坦部で大規模な河川改修を伴うことから、バイパス整備が最適である。 				
効率性 (事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な事業執行に向け、地元を含めたルート選定を行い、用地買収に向けた協力体制は整っており、5年完成システムのモデル事業として整備を行う。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 盛土材には流用土を利用し、盛土法面においては周辺植生に配慮した緑化を行って、環境への影響を最小限に留める。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 当路線の未改良区間解消に向けて順次整備を進めており、平成17年3月に建屋BPが完成、平成18年9月には上八代BPが完成し、線形不良である当該区間で道路線形が急変する。 北近畿自動車道が和田山まで開通(H18,7)し、和田山ICの混雑時には、本路線を迂回する交通が増えると思われる。(H18,8,13～15間の朝来IC利用交通量は2,585台/日で同年8月(土日)が1,069台/日になっており、約2.4倍) 以上により今後、本路線を通行する自動車の交通量や走行速度が上がる事が予想され、幅員狭小・線形不良の本事業区間における交通事故が懸念されるため、早急な事業着手・完成が必要である。 				